

【ハードフローリングの施工】

床下の換気処置

まずは床下の防水・換気処置を完全に施しておいてください。

施工の前に

無垢材の性質上、現場環境に馴染ませるという意味で、開梱し空気が通る状態で1～3日ほど置くのが望ましいとされています。その際、フローリング材を“木調合わせ”や“仮並べ”して、色調や木目のバランスが取れるように、張り方の配置を考えると、さらに綺麗に仕上げる事ができます。

施工（根太工法）

従来からの一戸建て木造住宅で多く用いられる工法です。土台の上（上階の場合は桁梁）に“大引”を架け、さらに根太を渡して、その上に“捨貼り”を施します。ゆえに『捨貼り工法』とも呼ばれます。

捨貼りどうしの接合部は2mmほど、壁との接面は5mmほど空けて、吸排湿による材の伸縮対策とします。床鳴りや浮き防止のため、根太上に専用の接着剤を塗ってから張り付ける事が多いです。仕上げではないので、釘留めは脳天打ちでかまいません。

張り終わった下地の上を歩いてみて、捨貼りに浮き上がりや歩くとキィキィ鳴るような場所がないか、よく確認しておきます。釘の頭もしっかり埋め込み、できるだけ綺麗な平面になるようにしておきます。捨貼り材の端など、跳ね上がりがあれば手ガンナで軽く削って整えておきます。この際、掃除もして木屑などが挟まらないようにしときましょう。

フローリング材の張り付け

下地がしっかり完成したら、いよいよ、仕上げである無垢フローリングの張り付けです。

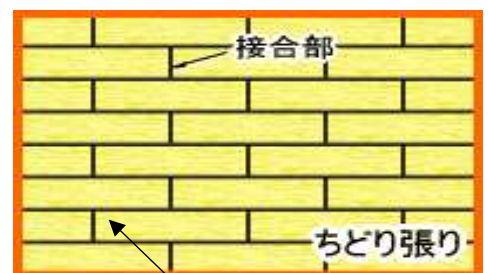
工事の際、無垢材ゆえに気を付けなければいけない事は、材を割ってしまわないようにする事と、多湿時の膨潤対策です。杉・桧材での「材を割ってしまった」という失敗は、釘打ちをした時に、木繊維を縦裂きに割ってしまう状態がほとんどです。これは木目の真っ直ぐ通る針葉樹で起こりやすい現象で、これを避けるには、少し手間をかけて、コツをつかむ必要があります。

割付と木調合わせ

まずは仕上げフローリング材の、“割付”を考えます。割付は、『三尺ずらし』です。

仕上げ材の“張り方向”は、捨貼りと同じく根太と直交になるよう張り付けるのがセオリーなのですが、しっかりした捨貼りをしてあれば、どのような方角から張ってもさして問題は無いと思いますので、効率と見映えなどの都合良い張り方向をお考えください。

割付を決めたら、“木調合わせ”もしてみましょう。



エンドマッチ

無垢材フローリングは天然の木材から削りだした状態の物ですので、それぞれに自然な個性が現れ、なかなか画一的な見た目にはなりません。そこで、より美しく施工したい場合は、まず1枚1枚の木調を吟味し、近似な材を集めて、場所により選別して張っていきます。

例えば木目と色合いの美しい材を集めて、部屋の入り口や真ん中の人目につく場所に敷設したり、逆に色合いや木調が外れる材は、家具下やクローゼット内などの見え難い場所にまとめて張ってしまうなどのちょっとした工夫で、施工後の見映えは変わってきます。割付と木調合わせが決まったら、計画する施工箇所にフローリング材をある程度“仮並べ”してみ、実際に張った感じを掴んでみます。この時に、狭く入り組んだ場所などを張る場合は、事故を未然に防ぐ意味で、あらかじめ材の取り回し手順など考え、ぶつけそうな箇所に養生を施しておきましょう。

捨貼り上への張り付け

床の“鳴き”防止として、フローリング材の裏側に接着剤を塗付して安定させます。この時も、必ず接着剤は木質系床材専用の物（根太ボンド）を使用してください。酢ビ系（水系）の、いわゆる白い液剤の木工ボンドは絶対に使わないでください。接着剤を塗るとき、フローリング材の側面であるサネ部には付着しないように塗ります。

弊社既製品フローリングの場合、オスザネ（凸側）の出っ張り根元の上から、内側に向かって斜め45度の角度で釘打ちします。その時、直接釘打ちすると実（サネ）が割れやすいので、事前にドリルで釘の太さと同径の“導き穴”を開けておくほうが無難です。この時、導き穴は捨貼り材まで開けてしまうと釘が効かなくなりますので、できるだけフローリング材のみ開けるようにしてください。ある程度打ち込んだ後、釘頭はポンチで軽く沈めます。

タッカーなどの釘打ち機で張り付ける場合も、同様に45度の角度で打ち込みます。

ステープルは捨貼りを大きく貫通しない程度の長さ（38～50mm）を選び、エア圧は試験打ちを何度も行って慎重に調整してください。



釘を使用される場合は、『フロア用スクリュー釘』を使ってください。この釘は胴部を螺旋状に加工しており、固定保持力が強いので床鳴りの防止になります。錆びないようにメッキが施してあったり、ポンチを当てやすいようカップ状の釘頭になっている物もあります。

壁際の納め

フローリング材を張り込んでいって、最終的な帳尻合わせは、凸側をカットして納めます。すでに上記のとおり、壁際との隙間は5ミリほど空けておきますので、それらも計算に入れて仕上げ材をカットします。慣れないと少し難しい作業になりますが、きっちり寸法を測って丹念にカットします。必ずタテ挽き用ノコギリで挽くようにしましょう。カットする材をバイスやクランプなどで作業台に固定すると、挽きやすくなります。

施工後の養生

フローリング材の貼付け完了後、竣工がまだであれば、早目に養生してください。養生シートは防湿性の物がお奨めです。シートの固定には、養生用テープを使う事になるのですが、化粧面にむやみに粘着テープを貼って置いておくと、その部分に変色跡が付いたりする事がありますので、ご注意ください。